



【ご挨拶】

残暑が厳しく長く続きましたが、ようやく秋めいてまいりました。一年で最も過ごしやすい季節です。最近夏が猛暑で長く、秋は短くなったように感じます。寝苦しい夜が多かったので、久々に夏バテを味わいました。朝晩が涼しくなり良く眠れますから、十分な睡眠をとり、夏の疲れをとっておきましょう。また秋は自然の恵みの多い季節です。きのこ、果物、イモ類、秋刀魚に鮭などをしっかりと召し上がって、適度な運動で身体を動かしましょう。来年から本格的に海外に広める方向で、学会の設立にむけて準備を進めています。類似品から守り、施術や活動がしやすくなります。セラピスト認定を受けて長年学んだ方々には、公式に学会から認定書が授与されます。(今はお腹セラピスト認定協会)

按腹ポイントは肺です。暑い時期は開いていた毛穴(腠理)を閉めるのに肺の力が必要です。肋骨周りの肺のゾーンの皮膚(お肉)をつかんで20~30回引き上げて下さい。毛穴を閉じて体温を逃さず、身体を守ることができます。

【活動情報】

ガンのお腹

今は二人に一人はガンになる時代です。確率は50%と高いリスクを抱えています。ただ手術をして取りました、では後々再発の問題が残ります。術後どのようにお腹を管理するかで明暗が分かります。

ガンになると胃土の邪は一気に広がります。常々胃の当たりが硬く気になっていた、胃のあたりの奥に小さい堅いしこりがポコポコあった、いつも胃のあたりに違和感があった、食後胃のあたりが重くなるなど兆候は必ずあるはずです。

今回のケースは胃土の邪がみるみる堅くなり、広がっていました。触った瞬間にガンであることがわかり、検査を勧めました。結果は予想どおり。さて、左側の邪は改善しましたが、右側の胃土の邪は全く動きません。ガンのお腹を克服するのも、あと一歩です。

骨の反応

へそ按腹では骨が重要です。ガンも骨の反応を探さなければ解決できません。へそ裏も骨に出ます。特に腸骨周り、仙腸関節です。

ではどのように按腹するか? 11月に行われる認定講座は、この重要な内容を伝授いたします。

不思議なことに、神経の働きが過敏になり過ぎると皮膚や筋肉が痩せます。そのポイントだけが痩せるのです。事故などで神経が麻痺すると筋肉が失われて痩せるのと同じです。へそ裏もその部分だけが細り、ゴツゴツした骨が露わになります。

打鍼で軽く叩くのも良いのですが、その前に邪の形がどのようになっているか、全体手技と仕上げの手技を駆使して、はっきりと全貌をつかむ必要があります。

大きな実邪

全ての病はお腹と腰回りに答えがあります。実の大きな塊が気血の巡りを妨げ、病を引き起こします。いわゆる邪が存在するのです。

お腹は打鍼の新たな使い方に対処し、腰回りはへそ裏叩きと按腹タオルを用いて強烈な邪を退治します。今まであまりに硬すぎて治療に時間がかかっていた実邪に対して、へそ裏叩きという面を使った画期的な治療法を見つけました。打鍼も面を使って、皮膚表面の反応を探します。更にへそ按腹の精度が高まりました。

11月2日(土) 3日(日) 2級セラピスト認定講座開催

秋の認定講座を11月2日(土)3日(日)に開催いたします。

今回のテーマは「過敏性腸症候群」です。

再受講の枠もごぞいます。

くわしくは治療院ホームページをご覧ください。

YouTube 会員についてのお問い合わせ先

【へそ按腹普及会 (すぎやま按腹鍼灸院内)】

電話 : 03-6206-2666

メール : heso.ampuku.hukyukai@gmail.com